

久留女木（くるめき）の棚田の生物調査

文：三宅 隆 写真：三宅飛鳥

久留女木（くるめき）の棚田は、浜松市引佐町の東久留女木と西久留女木にまたがる、観音山の南西斜面（標高 250m 付近）に位置しています。総面積は 7.7ha、その中に約 500 枚の田んぼがあるといわれ、その景観は「日本の棚田百選」に選ばれています。

棚田の起源は平安時代とも言われており、戦国時代に井伊家の庇護を受けて開墾が進んだといわれ、色々な伝説も言い伝えられています。

2025 年 3 月 この久留女木の棚田を管理する久留女木地域振興協議会より、この棚田の動物の調査を当 NPO に依頼されました。

それから約 1 年間、哺乳類・鳥類・爬虫類・両生類・昆虫類について、NPO の専門家が分担して調査をしてきましたので、その概要をお知らせします。

哺乳類 目撃と痕跡調査と共に自動カメラを設置しました。その結果、コウベモグラ、アカネズミ、ニホンノウサギ、ニホンアナグマ、ハクビシン、ニホンシカが確認され、棚田のフェンス外ではイノシシとタヌキ、アカギツネが確認されました。今回の調査では、見つかりませんでした。カヤネズミの生息も確認されており、貴重な生息地です。

鳥類 目視と鳴き声での確認です。1 年を通して 6 目 20 科 32 種の鳥類が確認されました。留鳥としては、カラス、トビ、ウグイス、ホオジロ、カワラヒワ等、夏鳥としては、サシバ、ホトトギス、ツツドリ、キビタキ等、冬鳥としては、ツグミ、ジョウビタキ、カシラダカ等です。特に珍しい種類は出ませんでした。サシバの確認は貴重でした。

爬虫類 目視による確認で、ニホンカナヘビ、ヒガシニホントカゲ、シマヘビ、ヤマカガシ、ニホンマムシの 5 種が確認されました。特にニホンマムシは、夏の夜間に通路に出ている個体が多く確認されました。

両生類 ここは、カエルの種類と数が多



棚田風景 5 月

く、モリアオガエルやトノサマガエル、ツチガエル、ヌマガエルなど 6 種類のカエルとアカハライモリが確認されました。このカエルの数の多さが、ここの生物相を支えているようです。

昆虫類 目視や採集、ライトトラップ等により、228 種類の昆虫を記録しました。その中ではコウチュウ目 64 種、チョウ目 40 種、バッタ目 39 種等です。トンボ目は 18 種類で、近年減少しているホソミイトトンボやホソミオツネトンボなども見られました。

絶滅危惧種等の希少な種類は、ほとんど確認されませんでした。田んぼという水辺環境の役割は、昆虫を初め、両生類や鳥類、哺乳類にとっても極めて重要な環境です。

棚田という特別な環境の為、生産性や従事者の高齢化等、問題は多くあると思いますが、自然にやさしい農業の持続が望まれます。この素晴らしい棚田が、歴史的、景観的にも、日本人の心の故郷として、未来に続いていくことが望まれます。

本年 5 月、この調査の昆虫部門を統括してくださった諏訪哲夫様が急逝されました。

NPO にとって、非常に大事な方を失い途方に暮れています。心より哀悼の意を表します。

なお、今年の 11 月 14 日～15 日に「全国棚田サミット」が浜松市のアクトシティ浜松で開催されます。



ニホンシカ



アナグマ



タヌキ



アカゲラ♀



ホオジロ♂



イカル



ジョウビタキ



ニホンマムシ



トノサマガエル



モリアオガエル



ヌマガエル



アカボシゴマダラ春型



ホソミツネントンボ



ミヤマアカネ



ミズカマキリ